

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名：佐藤 知代子 所属：南あわじ市立 市小学校 記録日：2022年 2月 9日
キーワード： 自己肯定感 コミュニケーション 読み書き支援

【対象児の情報】

- ・学年 小学3年生の男児
- ・障害名
ADHD
発達遅滞
- ・障害と困難の内容
 - 集中力が続かず、耳からの指示が入りにくい。作業途中で気が散ってしまうことも多い。
 - 見通しが立たない活動や異学年が集まる活動には参加しづらい。
 - 勝ち負けにこだわり、負けが見えた時には活動をやめてしまう。また、自分の思いが通らなかつたり嫌な事があつたりしたときには大泣きをしたり教室を飛び出したりする。
 - 書くことに苦手意識があり、書く活動には抵抗感がある。また、お話は上手にできるが、文章に表すことが難しい。
- ・使用した機器 ipad

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - 「できた」「楽しい」と思える経験を積み重ね、主体的に学びに向かえるようにする。
 - 自分の思いや考えを文章に表せるようにする。
 - 友だちや先生の名前を覚え、名前と呼べるようにする。
 - 活動の見通しを持ち、集団での活動にスムーズに参加できるようにする。
 - お金の種類や使い方を理解し、買い物ができるようになる。
- ・実施期間 令和3年4月12日～令和4年2月
- ・実施者 佐藤 知代子
- ・実施者と対象児の関係 知的障がい支援学級担任と児童

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

《学習面》

【検査結果】1年12月18日（検査実施年齢6歳） 新版K式発達検査2001

体を動かす力 3歳6ヶ月以上、見て考え・操作する力 4歳7ヶ月、言葉を理解し、表現する力 5歳0ヶ月、全体 4歳9ヶ月

- ・集中力が短く、作業の途中ですぐに話しをしたり、離席したりする。
- ・新しい学習に抵抗がある。少しできると思えると頑張っ取り組むことができる。基本的には「学習はしなければならないもの」という意識は強くあるので、ムラはあるが、与えられた課題はこなすことができる。
- ・書く事に課題がある。視写はできるが、画数が増えると正しく書くことが難しい。ひらがな・カタカナもぱっと思いつくことは難しい。
- ・感想や作文は口頭作文（代筆法）で書く事はできるが、文章量が多くなると写すのに時間はかかる。
- ・基本的な計算はできるが、大きな数の概念が不十分である。3桁以上は読むことも難しく、大小も分からないこともある。九九は8割程度覚えているが、「〇つずつ」という意味は理解ができていない。
- ・読書が好きなので、読解力がついてきている。初見の文章でもある程度理解はできる。
- ・お金の概念もなかなかつかない。硬貨の違いが分かっても大小やしくみは理解ができないこともある。（チョコレートが100万円、200円もあつたらゲームが買える、などを平気で言う。）

《生活・社会面》

- ・基本的な生活習慣はきちんと身につけているが、全てにおいて幼さがある。自分の思いが通らなかつた時や、嫌なことがあつた時には大声で泣いたり教室を飛び出したりすることもある。
- ・人との交流を好み、友だち関係もよい。休み時間には同級生と一緒に運動場で元気に遊ぶことができる。気持ちがとても優しく、困っている子を見つけるとすぐに助けに駆け寄ることがある反面、会話が一方的になってしまう相手困らせてしまうことも多い。
- ・大人数（特に異学年が集まる場所）は苦手で、その場には近づこうとしない。集会は、体育館の一番端に寄っている。
- ・人の名前を覚えることが苦手で、学校の先生やクラスの子の名前がなかなか覚えられない。先生は基本的に「先生」としか呼ばない。担任や一部の先生は名前と呼べる。
 - ・一斉指示を聞き取ることが苦手である。交流学級においては授業中先生の話聞き取ることが難しい。また、興味がない内容の時には好きな本を読んでいる。読書に集中すると、活動に参加できなくなる。
- ・暑さ・寒さに弱い。こだわりがあり、長そでの体操服が着られない。2年時にアンダーシャツとスパッツを重ね着できるようになった。
- ・マスクの着用が難しい。暑さも苦手なので「息ができない」「もう苦しい」と機嫌が悪くなる。コロナ対策として付けておかなければならないという認識は十分にあるが、なかなか実践が伴わない。また、肌が弱く耳の後ろが割れてしまいその痛さにも耐えられない。周りの児童からの理解はあり、攻められたり注意を受けたりすることはほとんどない

・活動の具体的内容

「できた」「楽しい」と思える経験を積み重ね、主体的に学びに向かえるようにする。



【metamoji classroom】(以下 メタモジ)

算数では、おはじきの代わりに操作をして位取りをする教具として活用した。導入部分では活用できたが、たくさん練習する時には、アナログな数字カードの方が操作はしやすかった。



【常用漢字 筆順辞典】

新出漢字を学習する際に活用した。書き順や文字のつくりを確認し、実際にタブレット上で確認できるので、複雑になってきた文字もスムーズに書くことができた。間違いやすい箇所は、何度も見返す事ができ、効果的であった。



【NHK for School】

リコーダーを初めて吹くときに、なかなか上手くできなかつた。息の使い方が上手くできずに嫌になりかけていたので、大好きな NHK for school の「音楽ブラボー」を視聴。番組の最後にシの音だけで吹ける曲があり、その曲と一緒に吹くことでリコーダーが吹けたという自信につながり、その後の学習がスムーズに進めた。また、算数や国語の時間に早く課題が終わったときには、ご褒美として「算数犬ワン」や「ことばドリル」を視聴した。

自分の思いや考えを文章に表せるようにする。

お話は上手で伝えたいこともたくさんあるが、文章に表すのが苦手なため作文には苦手意識が強かった。そこで、口頭作文(代筆法)をし、文章を組み立ててお手本を作りそれを視写して清書するという活動を続けてきた。また、書く活動を増やすため、生活単元で「夏野菜を育てよう」を行った。自分で決めた夏野菜を育て、定期的に「はたけニュース」を作成した。観察をして気づいたことや見つけた事を口で伝え、教師が文章にする。後でその文を視写するようにした。その中には必ず自分の思った事や感じた事を入れるようにした。野菜を写真で撮り、「はたけニュース」に使いたい1枚を選んで Air drop で送るようにした。



友だちや先生の名前を覚え、名前で呼べるようにする。



メタモジに写真を貼り付け、フラッシュカードを作成。

「この先生は誰？」クイズを定期的に行う。

また、収穫した野菜を袋に入れ、先生にプレゼントする。その際、ミニレターを添え、その先生へのメッセージを付けるようにした。同じ先生に偏らないよう、集合写真にチェックを入れていき、確認をしていった。



活動の見通しを持ち、集団での活動にスムーズに参加できるようにする。



行事の際には、活動の流れや注意すること、ルールなどを動画や写真を入れて分かりやすくまとめておく。気になる時には確認をするため見返すことができる。



お金の種類や使い方を理解し、買い物ができるようになる。

【いくらかな】

お金の種類や大小をゲーム感覚で覚えていく。

無料版のアプリのため、できることは限られているが、取りかかりに使用するのには十分であった。



【レジスタディー】

お買い物遊びに使用した。自分の作った野菜を始め、好きなお菓子や食事に値段を付けていく。

「500円で何が買えるかな？」という課題に対して選んだ商品の合計金額を算出する。もっと慣れてきたら、売り手に回る練習もしていきたい。



- ・対象児の事後の変化

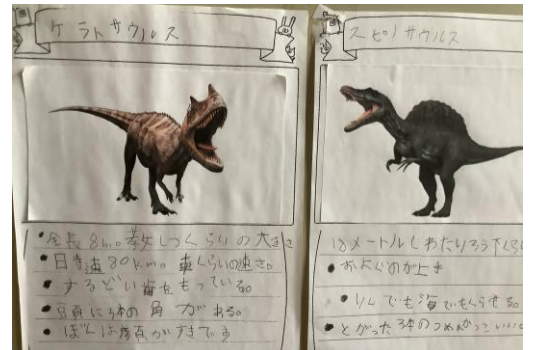
「できた」「楽しい」と思える経験を積み重ね、主体的に学びに向かえるようにする

〈国語〉

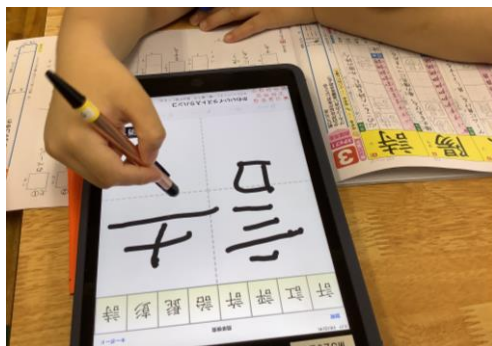
○自分の好きな物を題材に、短い文で視写をする活動を繰り返し行った。(週1時間程度)

昨年度は大好きな「恐竜」、今年度は「古代生物」をテーマに国語ノート1ページにまとめたものを視写。間違いなく書けたらそのテーマの写真を貼って完成。という流れを続けた。その1ページの中に漢字やカタカナ・mやkgなどを意図的に入れてなじめるようにした。始めは1ページを仕上げるのに何十分もかかっていたが、今では数分で仕上げ、自分で書きながら「あれ？ここは違うな」と確認することができるようになった。

○まとめや発見カードは、いつも同じ形式の枠を使い「初めてのもの」という意識をなくした。最初は同じ様式のものに書かなければならなかったが、最近は違う枠に書いたものでもきちんと行を考えて書くことができるようになってきた。



○新出漢字は「筆順辞典」を使い、漢字のつくりやしぐみを分かりやすくつかませた。



3年生になり、漢字が複雑になったり画数が増えたりしてきたが、アプリを使って練習をすることで自信をもって書くことができた。

スキルに書き込む時に、自動で筆順確認を流しておく、それに負けないように頑張る書くことができた。

間違いやすいところは、止めてその都度確認した。お手本を見ても正しく書くことが難しかったが、徐々に正しい字を書くことができるようになった。

〈算数〉

○大きな数の学習では、メタモジを使い、おはじきの代わりに位取りの学習をした。おはじきを使うと机の下に落としてしまい、なかなか進まなかったがタブレット上であればスムーズに作業をすすめることができた。タッチペンの操作はこちらが思っていた以上にスムーズにでき、苦手な大きな数の学習にも楽しく取り組めた。



また、何度も練習ができることも利点であった。導入部分で使い、意欲付けと苦手意識を軽減させ、その後の練習問題では、実際に数字カードを動かして作業をした。

○タブレットのデスクトップ上に電卓・九九表を貼り付けておき、いつでも確認ができるようにしてある。今は、電卓・九九表は限られた時だけの使用にしているが、上手に使うことができるようになってきている。かけ算の筆算練習に疲れてきたときには自分から「おにぎり先生（九九表）に聞いてみよう！」と言い、タブレットを開く姿が見られた。

お金の種類や使い方を理解し、買い物ができるようになる

○算数の時間に、お金の学習も入れている。「いくらかな」で楽しくお金の学習をしていくうちに硬貨の違いがわかるようになってきた。

はじめは、お金の概念・硬貨の違いもなかなか身につかなかったが、少しずつ理解ができるようになってきている。

今年度は、十分な取り組みができなかったので、引き続き取り組みを続けて行きたい。



自分の思いや考えを文章に表せるようにする。

○自分の育てている野菜に変化があったときには、「はたけニュース」を発行した。ニュースはいつもの視写カードに書くようにした。見てわかることだけではなく、必ず自分の感想を入れるようにした。はじめは、何でも「すごかった」しか言わなかったが、回数を重ねる毎に「早く大きくなってほしい」「わくわくする」「ママに食べてほしいな」など表現も変わってきた。また、タブレットを使って撮る写真も段々と上手になり、変化のあった部分に上手くピントを合わせられるようになった。「はたけニュース」は、教室前に貼っているので、異学年の児童や先生方が目にしてくれ、声をかけてくれるようになった。はじめはそれも嫌そうにしていたが、



段々と聞かれたことに答えたり、その野菜について知っている情報を伝えたりすることもできるようになってきた。夏頃になると、たくさん収穫ができた時には自分から交流クラスの児童に伝えることも出てきた。



○本校在籍の先生の写真をタブレットで写し、先生の名前をフラッシュカード形式で練習した。（自立の時間に週1回程度）また、栽培した夏野菜を先生方にプレゼントした。収穫した野菜の数を数え、均等に分け、袋に入れたものをモールで止めるようにしたが、はじめの頃は不器用さからモールが上手くまけずに時間がかかっていた。ラッピングもよい作業訓練になった。

プレゼントを渡す相手は職員集合写真を見て、〇〇先生に渡す。と、名前を言えた先生に決めプレゼントをした。もし名前と顔が一致しなければ休み時間等にその先生を探しに行き、先生の名前を尋ねるようにした。少しずつ、関わりの少ない先生にも興味を示し、それまでどの先生のこと「先生」としか呼ばなかったが、名前と呼べることが増えてきた。しかし、少し時間が経つと忘れてしまうことも多かった。プレゼントには「〇〇してくれてありがとう」のようにミニお手紙を添えた。お返事をくれたり、お礼を伝えてくれたりする先生が多く照れくさそうにしながらもとても嬉しそうだった。

〇国語の作文や感想文、道徳のふりかえりも含めて文章を書くときには一度自由におしゃべりをするようにし、それを担任が筆記したものを自分で書き写す。という活動を繰り返しているうちに少しずつ書き写す時間も短くなり、書くことに対する抵抗感が減ってきたように感じる。3学期に入り、そのサポートがなくても少しずつ自分で想起しながら書けることが増えてきている。

活動の見通しを持ち、集団での活動にスムーズに参加できるようにする。



〇運動会の代替行事、プール水泳、避難訓練、体育のゲーム運度や休み時間のドッジボールなど、ルールがわかりにくかったり、大人数で活動したりするような場合には、メタモジを使い、事前に流れを示しておく。メタモジの活用により、初めての行事や活動への見通しがたてられるようになった。1時間目に参加できなくても、友だちの活動している様子を動画に撮っておき、教室で見直し振り返りながら次回の作戦を考えた。そうすることで2時間目からは活動に参加できることも多かった。

3学期に行った体育でのボール運動では、教室で事前にルールや流れを説明した後、本人から「タブレット持って行ってもいいかな。」との申し出があった。運動場での活動であったので、プリントアウトして渡しておいた。何度もその紙を確認している様子が見られた。これがあれば安心というお守り的な存在となっていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

〇落ち着いた学校生活が送れるようになった

昨年度より、知的学級の学級目標である「なかま」を大切に日々を過ごしてきた。小学校の一員として、3年2組の一員として自分にとってできること、しなければならないことについて指導を続けてきた。「なかま」を大切にすることにより、「なかま」からも大切にされるようになり、がんばりをたくさん認めてもらえることができた。はたけニュースや野菜のプレゼントにより、多くの人から「すごいね。」「ありがとう」という言葉を何度ももらったことも大きな成長につながったと思う。

極度に失敗をおそれたり負ける事を嫌ったりしていたが、「やってダメなら仕方ない。一番ダメなのは逃げだすこと！！」を合言葉に、それも少しずつ柔軟に対応できるようになってきた。気持ちが落ち着いてきたことから少しの失敗もめげずに乗り越えられるようになった。

〇学習に意欲的に取り組めるようになった

ゲームやテレビは好きだったので、タブレットの活用は大変喜んでいて。昨年度はPCやタブレットは「頑張ったときのご褒美」であったが、今では、学習の支えとなっていると感じることも増えてきた。何か分からないことがあれば調べ、メモを取りたいことや残しておきたいものは写真に撮り、計算など困ったときにはお助けしてくれるという使い方もしっかりと理解し、上手く使えるようになってきている。また、キーボード入力も直接入力ではあるが、少しずつ早くなっている。

○周りに伝えたいという思いが芽生えてきた

大勢の人が集まったり関わりが少ない人がいたりするところは、あまり好まなかった対象児であったが、今年度の取り組みを通じて交流の幅が大きく広がった。何かができるときや嬉しいことがあったときには、自分から「これをニュースにしよう」といったり「みんなにお知らせしよう」といったりするようになった。また、交流学級での発表も昨年度は恥ずかしくなかなか後ろまで聞こえる声では言えなかったが、今ではゆっくりはっきりと喋ることができるようになった。また、授業中に手を挙げて発表することも増えた。これもやはり、周りに認められているという自己肯定感から来るものであると思う。

○書くことが自分にとって有益であると思えるようになった

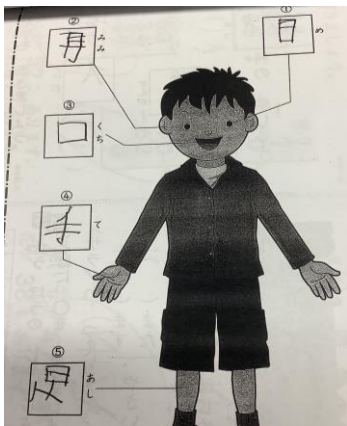
昨年度から、よく「ひみつのお話」をすることがある。休み時間の友だち同士のケンカについてや、家でのちょっとした出来事であるが、なぜか口では言わずに身振り手振りで伝えようとするのがあった。今年になり、文字が出てくるようになってからは、メモをかいて渡したり、トラブルの様子を絵や文字で表そうとしたりするようになった。身振り手振りより正確に伝わるのがわかったのであろう。また、大好きな恐竜やポケモンのキャラクターの名前を担当がよく忘れてしまうので、メモをし、渡してくれることもあった。

・エビデンス（具体的数値など）

○書く力

昨年度は、答を見てもなかなか正確な文字が書けなかったが、今年度になり正確に書けることがふえた。また、細かいマスにも入れられるようになった。昨年度は、25問の漢字テストをするにあたり、マスの横に答を書いておいても誤答はあった。しかし、今年度はB5サイズの解答用紙を見ながら書き写す事ができるようになっている。9月に行った50問テストでは、ほぼ45分かけて仕上げることができたが同じ文字を2回続けて書いたり少し違っていたりした。2月に行った50問テストでは、20分ほどで仕上げ、誤答もかなり少なくなっていた。

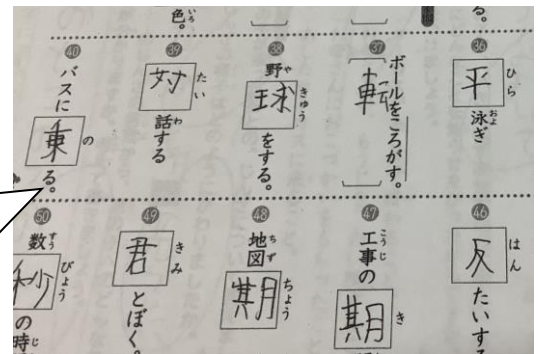
【2年時】



【3年 2月】



【3年 9月】

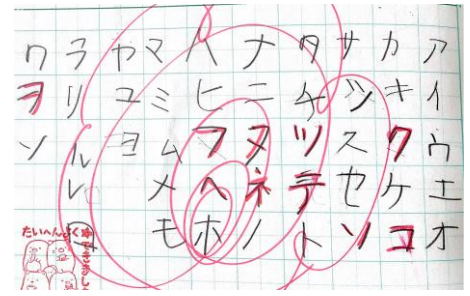
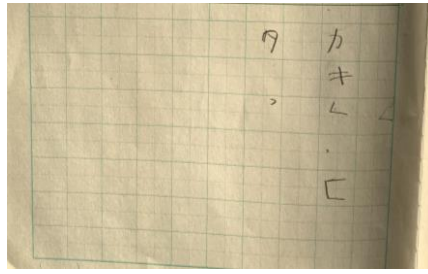
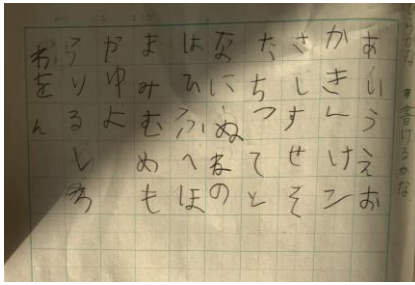


一行間違えて写したり送り仮名がなかったりすることは今でもしばしばある。

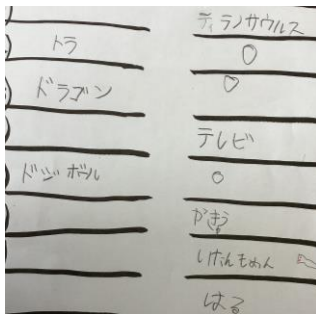
まだ少し誤字はあるが、同じ文字を書いたり送り仮名を忘れたりすることは少なくなっている。文字も整ってきている。

また、なかなかおぼえられなかった平仮名・カタカナも50音表順に書くことは難しくても「りんご」「バッタ」のように単語になると書けることが増えた。

特にカタカナは、50音表順であると5つほどしか書けないが「テ・イ・ラ・ノ・サ・ウ・ル・ス」のように単語とリンクさせると表を埋められるようになった。



今年度の初めには、単語ではほとんど書けなかった片仮名が、今では単語を聞いて書けるようになった。2月に外国語の時間でしたクイズでは、自分の解答を書きその後正解を聞いて書く事もできた。



まだ、拗音・促音は正しく書くことはできないが、平仮名と片仮名を使い分けたり、濁点を適切に使用したりすることはできるようになった。

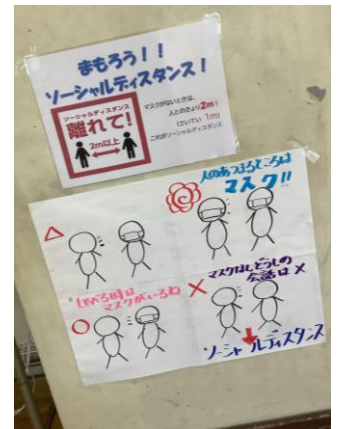
(※左の欄は自分の予想した答。右は解答)

また、想起して書く場合にはほとんどが平仮名か片仮名になってしまう。しかし、これまでは、書けなくても漢字でなければならない。と固執してしまっていたのが、平仮名でもOKと自分で思えるようになったことは大きな成長である。

・その他エピソード（画像などを含めて）

【エピソード①】

○感覚過敏に加えて、肌が弱く耳の後ろが割れてしまうのでマスクを付けることをかなり嫌がっていた。周りの理解はあり、誰も攻めることも離れることもせずにごさしてくれていた。2学期に入り、「ソーシャルディスタンス」「咳エチケット」の学習をした。教室で2メートルをはかり、マスクがないとどのくらい離れなければ安全とはいえないか。また、どの状況で離れなければならないかを確認した。鼻炎症状が慢性的にあり、しょっちゅう咳やくしゃみが出ているため、咳やくしゃみをするときにはどうするのかをイラストを見せ確認した。学習の後、少しずつ限定的にマスクが付けられるようになってきた。



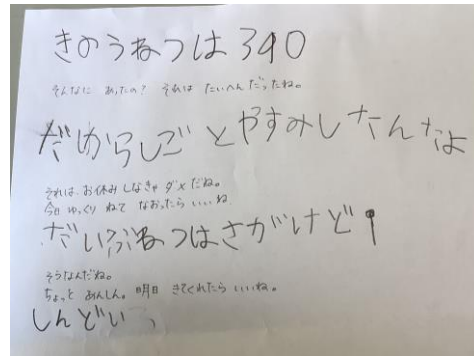
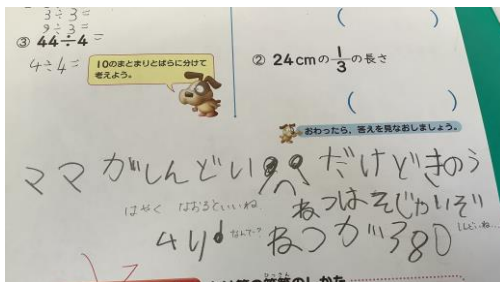
(特別教室・異学年交流・集会など) また、友だちとの距離が近すぎるときには「ソーシャル！」というと離れることもでき、人との距離感も少しずつ取れるようになってきている。

咳やくしゃみに関しても人に向けてしないということが習慣づいてきていた。

おうちでの協力もありコロナ第6波に伴い、マスクがないことの恐ろしさ、また、マスク無しでの会話・学校生活がどんどん難しくなっていることも理解できるようになり、現在では1日中マスクを着用して学校生活を過ごすことができるようになった。給食中のみマスクをはずすが、その時は喋らない。どうしても喋りたいことがある場合にはマスクをまた付けるということもきちんとできている。一日中マスクを付けて生活ができていたため、鼻炎症状も改善されており、集中して学習に取り組める時間が増えてきた。

【エピソード②】

11月頃、テストをしていると突然テストの裏に「ひみつのお話」を書いてきた。お母さんが熱を出してお仕事に行けないという内容の物だった。筆談で返事を返すとさらに筆談で返してきた。この日を境に、メモを取ろうとしたり、紙に状況を書いたりするようになった。これまでは「書かされている」「書かなければならない」という書く活動が、自分の思いを伝えるための手段として使えるようになってきている。



【エピソード③】

身辺自立はよくできていた対象児であったが、3年生になり、立位での小便が上手くできないということをクラスの友だちが教えてくれた。(下着も脱ぎ行っていた)そこで、教室にトイレの使い方の掲示物を貼り、教えて行こうと意気込んでいたら、その掲示物をじっと見て「分かった」と一人トイレに向かった。確認をしたところ、すんなりできていた。その後、トイレに行く際少し声かけをするだけで、すっかり上手にできるようになった。

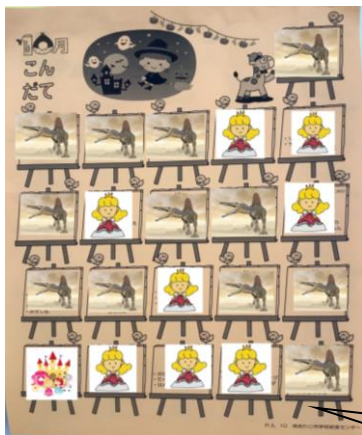


そこから、教室のカードを増やしてみた。「①番」「②番」のように番号だけ伝えるときちんと気をつけて直す事ができた。

同じカードをタブレットにも保存しておき、交流学級での授業の時にもカードを見せたり番号で伝えたりする事で、周りの子に何を注意されているのかが伝わらずに直すことができた。

【エピソード④】

対象児は入学当初より好き嫌い(偏食)が多く、給食はほとんど残していた。2年生の6月より長い休校が明け久々の給食となった。そのことでそれまで以上に給食への抵抗が強くなり、夏場の給食はご飯一口と牛乳という日も少なく無かった。苦手なメニューの時には吐いてしまうこともあった。



夏の懇談で保護者と相談し、食べる意欲へつなげるため、おにぎりを持参してもらうようになった。おにぎりを持ってくことで安心感も得られ、今年度より少しずつ給食にもチャレンジできるようになってきた。9月からはメタモジを使い、給食チェックを行うようにした。勝負事が好きな対象児であったので、この給食チェックが驚くほど効果的で、毎日意欲的に食べられるようになってきた。全く手を付けずに残すというおかずがなくなり、みんなと同じ普通量を完食できる日も増えてきている。どうしても食べられなかった魚や麺類も半分程度は食べられるようになった。

- ・時間内に食べ終わったら、恐竜・時間外に食べ終わったら、お姫様。残したら、お姫様がいっぱいいるお城を、その日の献立の上に動かす。